

教育委員会事務事業
点検・評価報告書
(平成26年度事業対象)

平成27年7月
小松市教育委員会

は じ め に

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、小松市教育委員会が平成26年度実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、金沢学院短期大学 諸岡康哉教授にご意見をいただき、まとめたものです。

平成27年7月

小 松 市 教 育 委 員 会

教 育 委 員 会

職 名		氏 名
教 育 長		石 黒 和 彦
教育委員	教育長職務代理者	北 村 嘉 章
	委 員	野 田 美 和 子
	委 員	蘆 邊 千 鶴 子
	委 員	吉 原 慎 吾

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1. 学びの道しるべ（小松市教育目標）改訂

小松市教育目標の改訂ポイント・・・・・・・・・・・・・・・・	1
--------------------------------	---

2. 事務の点検評価

施策1 学校教育の充実

1 組織的な運営・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2 確かな学力の育成・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4 健やかな体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・	7
5 家庭地域との連携・・・・・・・・・・・・・・・・	8
6 その他・・・・・・・・・・・・・・・・	8

施策2 教育環境の整備充実

1 安全・安心な学校施設の整備充実・・・・・・・・	10
2 安全・安心な学校管理・・・・・・・・	10

施策3 生涯学習の振興

1 社会教育委員・・・・・・・・	11
2 生涯学習推進体制の充実・・・・・・・・	11
3 活力ある地域づくりの推進・・・・・・・・	13
4 青少年の健全育成・・・・・・・・	13

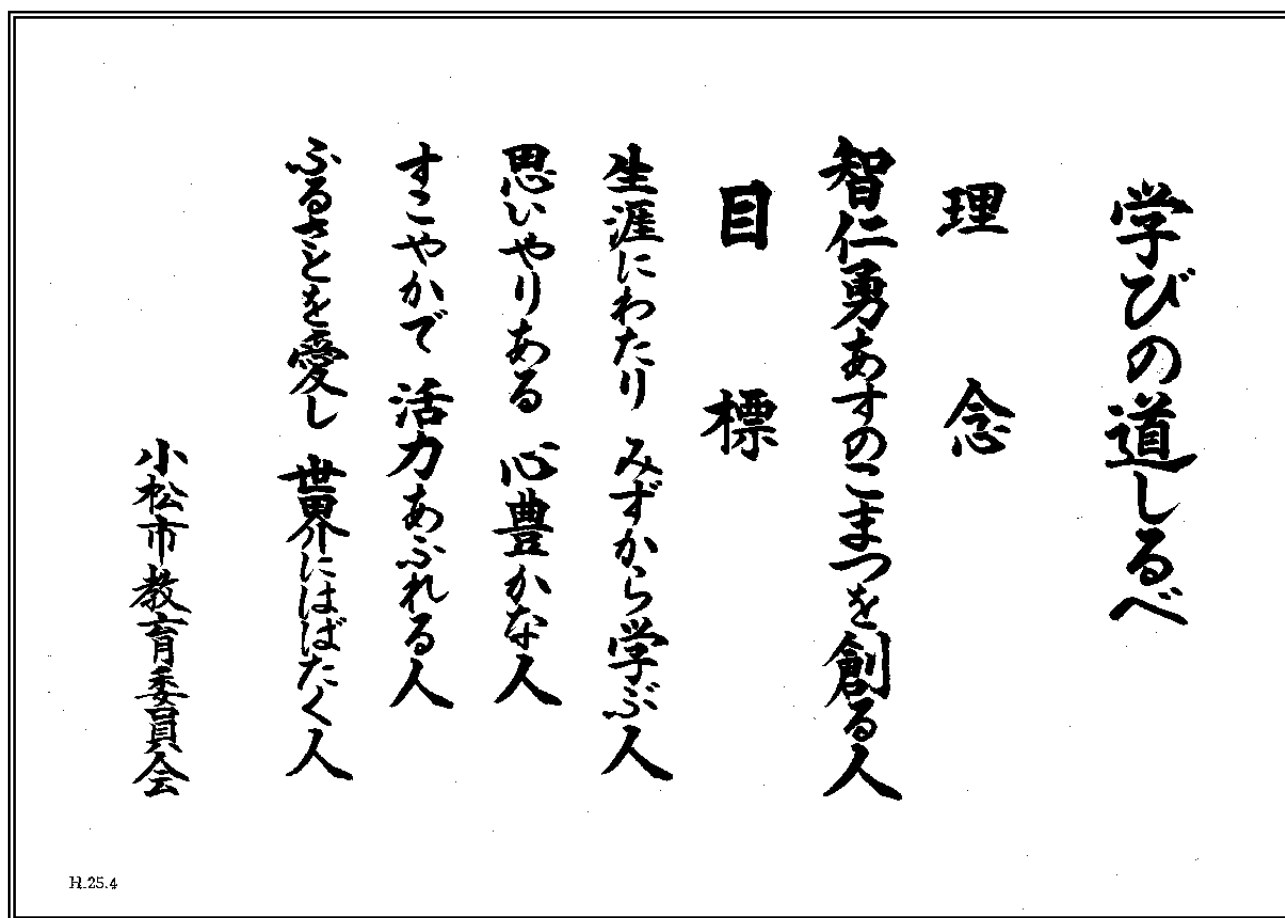
施策4 文化振興

1 文化財の保護と活用・・・・・・・・	15
2 伝統文化の継承・・・・・・・・	18
3 文化施設の活動充実・・・・・・・・	18

3. 教育委員会会議および教育委員の主な活動

(1) 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・	22
(2) 教育委員が出席した主な活動内容・・・・・・・・	28

1. 学びの道しるべ(小松市教育目標)



理念と目標

(考え方) 明日の小松を創る、智(賢く)、仁(優しく)、勇(逞しい)の人づくりを目指す
よって、キーワードを「智仁勇+創造」とし、

- ① 生涯にわたり自ら求め学び、幅広い知識と教養を身に付けた人づくり
- ② 人を思いやる心、正義を重んじる心、豊かな感性と社会性を育む教育
- ③ 健やかな体を育み、明るく活力に満ち、たくましく生きる人づくり
- ④ 郷土を愛し、世界の人々と交流し、未来を担う能力・創造力を育む教育
の観点から、より平易な表現方法を考える。

教育は、「教える者」と「教えられる者」との間に成り立つものです。

しかし、生涯学習社会といわれる今日、究極には「自己教育」との認識のもと、市民や児童生徒が自ら主体となった教育・学習活動を行うことが大切です。そのために「道標(理念・目標)」を提示し、新しい教育目標を「学びの道しるべ」としました。

2. 事務の点検評価（【1】～【4】は学びの道しるべの目標の番号を示す）

施策1 学校教育の充実

＜未来を切り拓き、生涯にわたって自立的に生きる力を育む学校教育の充実＞

〈方針〉主体性・創造性・国際性を指向するとともに、自らを律し、他と協調しながら自立的に生きる力を育み、健全で活力あふれた人づくりを目指す。学校教育においては、学習指導要領の趣旨を徹底し、「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視するとともに、教師に対する揺るぎない信頼を確立し、「特色ある学校」づくりを目指す。

目 項	事業の名称及び実施概要	評価
1 組織的な学校運営	○学校評価の運用 ・学校評価運営交付金	各学校は、特色ある学校づくりのため、様々な取り組みを行っている。市として各学校の事業内容、学校規模を考慮しながら交付金を決定し、重点目標の具現化を予算面でサポートしている。今後も各学校の特色ある学校づくりを支えていくため、本事業を継続していきたい。
	○管理職研修 ・学校マネジメント能力の育成	教頭を対象とした管理職研修を5月、8月、10月に3回行った。第1回:講話(小松教育事務所長) 第2回:法規演習 第3回:講話(小松市教育長)、課題別演習 H24・25の2年間で18名の管理職が退職した。トップリーダーの育成は喫緊の課題である。今後も、教育行政関係者を講師に招聘し、管理職として求められている姿を学び、学校マネジメント能力の育成を図りたい。
	○主任研修 ・教育課程の研修 ・ミドルリーダとしての役割の自覚と資質の向上	年2回(4月、12月)開催し、組織的な学校運営のための教務主任の役割や学校が抱える課題への対応等について、グループ協議を通し深めることができた。教務主任の学校で果たす役割は大きく、今後も研修を継続し、資質の向上に努めていきたい。
2 確かな学力の育成	○わかる授業プロジェクト【1】 教師の授業改善や指導力向上により、児童生徒の確かな学力の向上を目指す。 ・「わかる授業プロジェクト」リーフレットの作成・啓発 ・「授業づくりセミナー」の開催(年3回) ・小松市基礎学力調査 小3、小5、中1、中2を対象 ・学力向上プラン策定 ・学力向上アプローチの作成・配付	わかる授業の実現に向けて、「一人一人に力をつける授業づくり」「安心して学べる学級づくり」「共に育てる体制づくり」を3つの柱としたリーフレットを作成・配布し、市の方針・重点指導事項を啓発することができた。各学校においては、授業改善の意識が確実に高まり、その方法や内容も創意工夫が見られるようになってきた。 「授業づくりセミナー」(国語・算数・英語)では、示範授業や模擬授業により、具体的な授業づくりのイメージを参加者が共有することができ、日々の指導に生かせる有意義な内容であった。 学力向上事業としては、各校における学力向上プランの策定や小松市基礎学力調査の実施、「学力向上アプローチ」の作成・配布により、小松市の児童生徒の学力の実態を踏まえた指導の充実、活用力の育成に結び付いた。 今後は、授業改善・学力向上に向けた学校ぐるみの実践・検証の充実がより一層求められる。
	○英語力の向上【4】 児童生徒のコミュニケーション能力の育成と教員の指導力向上を図る。 ・小学校ハローイングリッシュ推進事業 外国語指導助手・地域人材の派遣 ・中学校英語力向上事業 非常勤講師の配置 英語チャレンジの実施 ・松東中学校区小中連携英語教育 常駐外国語指導助手・日本人講師を配置 ・那谷小学校英語教育 常駐外国語指導助手の配置	小学校においては、外国語活動講師を積極的に活用することにより、学習活動の充実が図られ、児童のコミュニケーションへの興味・関心や意欲が高まった。今後は、講師との効果的なチームティーチングや外国語指導助手の研修の在り方等について研究していく必要がある。 中学校においては、1年生を中心とした非常勤講師の配置や英語チャレンジテストの実施により、きめ細かな指導の充実が図られ、基礎的な基本的な学習内容の定着が進められた。 松東中学校区・那谷小学校では、外国語指導助手等とのチームティーチングにより、英語を聞く・話す機会が充実し、児童生徒のコミュニケーションへの意欲の高まりが見られた。 今後は、小学校で高められたコミュニケーションへの意欲を継続させ、中学校において英語によるコミュニケーション能力を高めていく指導改善が求められる。

	○理科教育の充実【1】 ・提言「理科大好き青少年の育成」アクションプランの作成(新規) ・JAXAとの連携 ・教職員研修 ・理科備品の充実 ・サイエンスワールド開催 ① 中海小学校体育館 333名参加 ② 小松市民センター 524名参加 ・湯浅中山賞研究発表会 60名参加 ・サイエンスヒルズの活用	これからの理科教育を考える会では、小松市の目指す「理科大好き青少年の育成」「理科における学力向上」を達成するために提言を作成した。今年度、この提言を受けて、アクションプランを策定した。今後は、アクションプランを具体的な取組として実践していく。 科学実験実習講座は、JAXAの遠藤純夫氏を招き、身近なものを用いた実験を通して、子どもたちの科学への好奇心を育むことの大切さや科学が子どもたちの可能性を広げていくことについて講演いただいた。実際の授業にいかせる有意義な研修であったという感想が多数あった。 サイエンスワールドは、平成17年より開催している。小・中学生を対象に2回行った。特に、今年度は10周年ということで、2回目は規模を拡大して行った。様々な実験・体験ブースを企画し、実施。2回合計の来場者は昨年度より約300名増であり、大好評であった。科学のおもしろさと不思議さを体験することが、児童・生徒の理科への興味・関心につながっている。今後は、親子で体験できるブースを充実させ、科学のまちの推進に努める。 H23年度の第1回開催より、過去最大の参加者であった。金沢大の松原教授から、一人ひとりの研究に対して丁寧で的確な助言を頂き、参加者にとって、科学的な探究心を高める有意義な研究発表会になった。今後は、子供たちの科学的思考力を高めることに重点をおき、取組を充実させる。 サイエンスヒルズ活用カレンダーを作成し、市内各学校に、活用を推奨した。今年度は、市内小中学校21校が教育活動の一環として活用した。今後、全小中学校での活用を推進する。 夏季教職員研修として、サイエンスヒルズ職員の北野皓嗣氏を招き、ものづくりの先端技術について講演いただいた
2 確かな学力の育成	○国語力の育成【1】 ・国語科重点指導一覧表の作成 ・森山啓ジュニア文芸賞、かけはし文芸コンクールの啓発	国語教育推進事業の趣旨を周知し、各学校において、国語科重点指導一覧表を作成し、単元でつきたい力の焦点化を図った。また、「授業づくりセミナー」を実施し、模擬授業を提案した。児童生徒の論理的に思考する力の育成に課題があり、各校の確実に力のつく具体的な取組みの充実を図りたい。 かけはし文芸コンクールでは、生活作文・意見文・詩・短歌・俳句で、総計29,064作品の応募があった。さらに、2年目となる森山啓ジュニア文芸賞の表彰や優秀作品を掲載するかけはし文芸コンクール作品集の作成により、啓発に努めた。
	○授業支援事業【1】 ・学校訪問 教育課程の実施状況の把握、指導・助言 計画訪問 29校で実施 要請訪問 年間40回 市立高等学校 1回 ・学習サポーターの配置	市内小・中・高等学校において計画訪問・要請訪問を実施し、各校における教育課程・組織的な学校運営・生徒指導等の実施状況について把握し、明らかになった課題や改善すべき点について効果的に指導・助言を行うことができた。本年度の改善点としては、担当者協議を取り入れたことで、担当者に対する周知や市教委との課題の共有が進んだことや、全体会でのまとめの時間の確保により、周知・伝達が十分にできたことなどが挙げられる。 今年度、計画訪問で研究授業を実施しなかったことにより、学校研究の進捗状況の把握が難しいという課題が挙げられたので、次年度に向け、研究授業及びその整理会を位置付けていきたいと考えている。 学習サポーターを小学校20校、中学校5校に配置し、担任または指導者の指示のもと児童生徒の学習活動の支援に入っている。各学校の希望は多く、すべての希望には添えていない現状があり、さらに支援の充実を図りたい。

○研究推進事業【1】 ・教職員研修 ・夏季教職員研修 教職員の資質向上、見識を広めること等を目的に教育関係を中心にして様々な分野から講師を招き、教職員を対象に夏季休業中に研修を開催する。 ①＜読書活動＞ 東京大学大学院教授 秋田 喜代美 氏 111名参加 ②＜特別支援教育＞ 滋賀医科大学准教授 藤井 茂樹 氏 96名参加 ③＜授業改善＞ 国立教育政策研究所 学力調査官 笠井 健一 氏 233名参加 ④＜学級づくり・授業づくり＞ 上越教育大学教職大学院准教授 赤坂 真二 氏 192名参加	教職員の資質向上のために、学校教育課の夏季教職員研修として4講座を開催した。大学の教授等専門性の高い講師を招聘し、講演を実施した。小松市で、今年度推進している「読書活動の推進」について、具体例を交えながらお話していただいた。特に、読書を生涯かけて楽しんでいくこと、本を通じて対話することで人と思いを語り合うことが大切であると教えていただいた。どの講座も参加者の評価は高く、好評であった。 今後とも、教育の動向を見据え、教職員のニーズを捉えた研修会の内容の充実、優れた講師の発掘に努めたい。
・授業づくりセミナー 児童・生徒に確かな学力をつける授業の実現に向け、テーマに基づいた提案授業（模擬授業・示範授業等）をもとに協議し、授業改善の具体的な方向性を共有することで、授業づくりや指導の改善に生かす。 ①国語科 筑波大学附属小学校教諭 青山 由紀 氏 73名 ②算数科 筑波大学附属小学校教諭 盛山 隆雄 氏 72名 ③外国語活動・中学校英語科 文部科学省初等中等教育局国際教育課 外国語教育推進室 教科調査官 直山 木綿子 氏 外国語活動 35名・英語科 25名	今年度は、児童・生徒に確かな学力をつける授業の実現に向け、講師の先生を招聘し、テーマの実現に向け、模擬授業や示範授業をもとに協議し、授業改善の具体的な方向性を示唆していただいた。 どの講座も、参加者の評価は高く、「今後の授業の参考になった」「明日からすぐに実践してみたい」という感想が多かった。 これからも、確かな学力をつける授業の実現に向け、優れた講師を招聘し、充実した研修会を行いたい。
・パワーアップ研修会 教員の学級づくり、授業づくりの向上をめざし、グループ協議を行う。	今年度6回目のパワーアップ研修は、24名の若手教員が参加し、少人数でのグループ協議に指導主事が加わり、具体的な視点で深めることができた。どの参加者も満足感と明日からの元気を得て会場を後にした。
・教育センター研究・研修事業（教育センター） 教職員・保護者、一般市民が教育課題について学ぶ講演会の開催や教職員の資質向上を図るための研修講座の開催 ・各種研究会の運営 ・教育講演会の開催(1回)121名 ・特別支援教育講座の開催(1回)158名 ・児童生徒理解講座の開催(1回)167名 ・地域理解講座の開催(1回)66名 ・情報スキルアップ講座(1回)16名 ・科学実験実習講座の開催(1回)33名	情報モラル教育を進めるための基盤となる「情報モラル系統表」や不登校児童・生徒の早期発見・早期対応への啓発資料など研究会の運営を通して作成・配布することができた。今後は推進校を中心に、具体的にどのように実践していくかを発信していく予定である。 講演・講座についても各分野の専門家を招聘することができ、大会場開催の講演会や講座は100名を超える参加者があり、関心が高いことがうかがえた。アンケートの所感も好評であった。来年度も各分野の専門家を招聘し、学校教育の参考となる講話をお願いしている。 科学実験講座を開催し、理科教育の研修の充実を図ってきた。今後、若手の人材育成を図るために研修を行う予定である。

	・研究指定校による推進啓発 学校研究及び教育実践の創造性、主体性を尊重し、市教委が研究実践について支援することにより、一層の推進・充実を図る。 人権教育指定校 松陽中 いしかわ学びの指針12か条推進校 芦城小・芦城中 課題発見力育成事業指定校 稚松小・丸内中 教育課程研究推進校 栗津小 理科教育推進校 中海小	人権教育指定校(松陽中学校)においては、生徒指導の3機能を生かし、生徒一人一人の人権を尊重した授業づくりや生徒会を活用した自治的活動(いじめゼロ憲法の制定等)に取り組んだ。 いしかわ学びの指針12か条推進校(芦城小学校・芦城中学校)では、活用力を高める授業づくりに、課題発見力育成事業指定校(稚松小学校・丸内中学校)では、課題発見・解決力を高める指導の充実に取り組んだ。 教育課程研究推進校(栗津小学校)では、国語科の授業の充実に、理科教育推進校(中海小学校)では、理科・生活科の授業改善・学力向上に取り組んだ。いずれの学校も研究発表会では、公開授業や講師による講演会が行われ、市内外へのよい発信の場となった。 本年度は、市教育委員会指定の研究校2校による中間発表会等も開催された。今後も、県・国の研究指定とのバランスを考慮しながら、今求められている力の育成に向け、研究テーマや内容を検討していきたい。
2 確かな学力の育成	○特別支援教育推進事業【2】 LD, ADHD, 高機能自閉症等を含めた障害のある児童生徒の一人一人のニーズに応じた、適切な指導・支援を行う。 ・特別支援教育支援員の配置 37名 小学校17名, 中学校10名 ・特別支援教育支援員の打合せ会・研修会 ・通級指導教室の設置(芦城小・矢田野小) ・特別支援教育コーディネーター連絡会 ・特別支援学級・通級指導教室担当者会	小・中学校に特別支援教育支援員を37名配置し、児童生徒の学習活動・学校生活上の支援を行うことができた。通級指導教室として、芦城小学校に言語障害と特別支援の計2教室を設置、矢田野小学校に2教室を新設し、市内全域を対象として児童生徒の指導に当たっている。各学校においては、特別支援コーディネーターを指名、校内委員会を設置し、特別な支援が必要な児童生徒の実態把握に努め、個に応じた指導・支援に努めている。 今後、児童生徒のより一層の支援の充実を図るために、特別支援教育の体制整備が必要となる。
	○帰国外国人児童生徒支援事業【4】 帰国・外国人児童生徒の日本語指導や学校への適応指導を行う。 ・日本語教室の設置 第一小学校(センター校) 丸内中学校 ・訪問指導(日本語支援員・通訳支援員の派遣) ・連絡協議会の開催 ・他機関との連携(KIA・国際都市推進センター)	通訳講師・通訳サポーターの派遣により日本語教室設置校以外の在籍校への支援を行った。また、日本語支援員による訪問を行い、初期段階の日本語指導が必要な児童生徒への適応指導や日本語指導(学習指導含む)の充実が図られた。25年度の連絡協議会では在籍校の担当者を集めて、日本語指導の支援について情報交換を行ったり、外部講師を招いて、帰国外国人児童生徒教育の現状などについて研修を行った。 今後も、対象児童・生徒の動向を確かめながら、日本語指導の充実や受入体制、連絡協議会の充実についても検討していきたい。
	○ICT活用教育推進事業 ・ICT環境整備 ・インストラクターによる訪問 ・情報モラル教育の推進	夏季研修講座でOffice2010を使って、学級通信の使い方講座を行ったところ、非常に好評であった。 各学校でのICT化が進み、インストラクターの訪問要請が年々増加している。定期訪問以外にも突発的なトラブルや授業支援等へも柔軟に対応できた。 情報モラル教育では、情報教育研究会を核として年1回の授業公開を続けている。また、講演会で直接保護者や教職員に向けて、携帯電話やインターネットの危険性についても伝えている。

○読書活動推進事業【2】 ・ブックリストの作成 ・学校司書への研修 ・図書ボランティアの育成 ・図書館システムを活用した相互貸借 ・市立図書館、絵本館との連携イベント「くどうなおこさんがやってくる。みんなでよもうのはらうた」(新規) ・小松市図書館を使った調べる学習コンクール(新規)	新子ども読書活動推進計画に沿って、発達の段階に応じた読書活動の推進に努めている。 ブックリストは、幼児から中学生までの発達段階に応じた良書を200冊選出したものである。24年度に小中学生全員に配付、25年度からは新1年生に配付している。読書の記録として中学卒業まで使用するものであり、読書の量と同時に読書の質を高めるのに効果的であった。また、ブックスタートとして、4ヶ月検診での配付(すこやかセンターにて)も行っている。 学校司書の研修では、「読書センター」や「情報・学習センター」としての図書館のあり方を研修し、一層の学校図書館機能の充実につながっている。25年度の一人平均の読書量は、小学校106.2冊(昨年度91.8)、中学校22.7冊(昨年度19.5)であった。図書館システムを利用した相互貸借他、児童生徒の貸出状況を把握し、読書についての司書のきめ細かなアドバイスも図書利用の充実に効果的であった。 小松市図書館を使った調べる学習コンクールは全国コンクールにつながる地域コンクールとして25年度、第1回を開催した。604名の参加、学校による1次審査を経て、2次審査を読書活動推進委員により実施し、入選57点の中より7点を全国コンクールに推薦した。また、教育センターを会場に入選作品の展示を行い、3日間で129名の来場があった。 図書ボランティア連絡会は、各校でのボランティアの工夫ある活動の紹介や改善策を交流する会である。25年度は講演を盛り込み開催した。図書ボランティアが、学校の他より広く活動できるよう今後も連携を深めていく。 読書活動の推進に当たっては、学校だけでなく、市立図書館、絵本館などと連携を図り、取組んでいく必要がある。25年度実施した「くどうなおこさんがやってくる。みんなでよもうのはらうた」では、工藤直子氏による講演、ボランティアによる読み聞かせブース、小中学生によるのはらうたの詩の展示などを実施した。
○生徒指導の充実【2】 ・積極的な生徒指導の推進 ・いじめを見逃さない学校づくり	小中全ての学校において、校長をトップとするいじめ問題対策チームを常設し、早期から組織的に対応できる学校づくりを進めることができた。 他者から認められる喜びに気付かせ、いじめに向かわない児童生徒づくりのために、児童会や生徒会を中心とした異年齢活動や挨拶運動等を意図的に取り入れる学校が増加している。 いじめアンケートによる実態把握や啓発活動等を行い、早期発見・早期対応に努め、児童生徒の豊かな心の育成を図っていきたい。 いじめの認知件数は、2年続けて減少しているものの、潜在的な数は減少していないと捉え、児童生徒の小さな変化を見逃さないよう、組織的対応に努めたい。また、未然防止の取組として、今後は、自己有用感を高め、いじめに向かわない学校風土づくりのために、生徒指導の3機能を生かした教師の関わりや、児童会生徒会が主体となった活動を取り入れた積極的な生徒指導を一層推進していきたい。
○道徳教育の充実【2】 ・推進校の指定 ・保護者や地域住民との連携 ・実践の啓発 ・いしかわ版道徳教材の活用(新規)	小松市立荒屋小学校・板津中学校を道徳教育推進校に指定し、家庭や地域社会(小中連携)との協力・連携により、教育活動全体を通じた道徳教育や道徳の時間の充実が図られた。 道徳教育講座を開催し、いしかわ版道徳教材を活用した授業や、家庭・地域が参加・協力出来る道徳授業など、推進校の取組を市内外に発信するとともに、保護者や地域住民の道徳教育への理解を深める役割も果たした。

3 豊かな心の育成	○不登校いじめ対策・教育相談事業【2】 ・心の相談員の配置 ・スクールソーシャルワーカーの配置	不登校、登校しぶり、学校生活へのつまずきのある児童への対応、保護者相談を行った。心の相談員配置は25年度小学校全校配置(25校)、中学校についても2校配置した。児童生徒の悩みは複雑化し、増えてきており、学校は今後も心の相談員の配置を望んでいる。 教育相談研究会では、「アンケートを生かした学級づくり」というリーフレットとともに研究成果をまとめた。次年度この成果物を市内小中学校全担任に配付し、PDCAサイクルによる学級づくりの視点と学校内での組織的な学級づくりについての啓蒙を図る。 担当者会、講座、講演会など、担当者として、また教育者として生徒指導についての実践力を高める機会を設けた。また教育相談事例検討会では、実際に困り感のある事例について専門家のアドバイスを受けながら今後の対応を参加者とともに検討する機会として活用が見られた。今後も、全体に、また個別にサポートする体制を充実させていく必要がある。 スクールソーシャルワーカー2名の配置は、問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に大変有効である。特に、長期化・複雑化が予想されるような事案に対して、具体的な方策を適切に助言できた。今後も継続して配置していきたい。
	○小松市緊急危機対応サポートチーム ・重大な事件・事故・災害発生時の学校に対する緊急支援 ・児童生徒・教職員・保護者へのメンタルサポート	各分野の専門家による指導・助言等により、有効な学校支援を行うことができた。 今後は、マニュアルの修正や体制の見直しを図りつつ、平時から関係機関と連携を図っていく必要がある。
4 健やかな体の育成	○体育・スポーツの普及と振興 ・体育備品の充実 ・体育の振興 ・全国大会選手派遣	児童の運動促進を図るため、体育備品の補充を行っている。 25年度は、マット、跳び箱、ロイター板を購入した。今後も継続的に体育備品を補充する必要がある。 器械運動競技大会や水泳記録会、相撲教室などの開催で、運動の意欲化、競技力の向上と児童の健康・体力の増進が図られている。 今後も安全性を確保しながら、体育の振興に努めていきたい。 運動部活動は専門的指導を求める生徒のニーズに応え、充実と活性化が図られている。また、児童生徒の体力の向上や明るさ、活力の育成で、スポーツ全体の振興が図られている。 外部指導者派遣の充実が図られ、選手の育成・強化の推進により、全国大会など大会出場の選手増加につながった。 全国大会などに継続して出場するためには、選手の更なる育成・強化が求められる。 大会補助:中学校9回, 高等学校10回 予算が不足した際には、補正で要望し対応

5 家庭地域との連携	○学校における保健・安全の推進 ・学校環境衛生事業 ・地域と連携した避難訓練 ・学校給食アレルギー対策	測定や点検などにより、適切な環境づくりのための施設の整備等に指導助言を行っている。 地域と連携した避難訓練を全小学校で実施し、校地外での避難場所と避難ルートを確認することができた。災害においては、的確な判断力が求められるため、次年度以降にDIG(図上)訓練を消防署と連携し、実施したい。 給食のアレルギー対策については、市の基準に基づき、管理指導票の提出を求め、学校の設備に応じた対応を行っている。また、アレルギー症状を発症した際の対応について、研修会を行った。
	○学校給食事業 ・給食用器具の充実 ・学校給食地場産物の活用 ・給食普及充実	器具の更新により、安全面、衛生上の改善が図られる。 学校給食に地元のお米を使用することにより、児童・生徒が郷土に関心を持ち、食への意識を高めている。また、国の第2次食育推進計画の目標値である「学校給食における地場産物の使用割合30%以上」を達成している。 学校給食が安全で衛生的に行われるよう消耗品更新や検便を実施し、また、資質向上のため各種研修会に参加した。
	○小中の連携 ・各中学校区における小中連携の取組の推進	御幸中学校区(学力向上)や板津中学校区(道徳教育)等、中学校区を単位として小中連携が進められている。 今後も、小中9年間の学びの連続性を大切にし、各中学校区の状況を踏まえ、学習指導の充実や基盤づくり、生徒指導の充実における連携を積極的に推進していきたい。
	○幼保小の連携 ・情報交換 ・行事交流	新就学児童の様子や現状について、幼稚園・保育所の視察に小学校から出向いたり、就学に向けて幼稚園・保育所からの情報提供を受けたりしている。 各小学校の実情や特色を生かして、秋祭りや新入生を迎える会等の行事を中心に子ども同士の交流が図られる機会を設けている。 今後も、一人一人の子どものよさや課題・必要な支援を共有し、子どもの学びをつなぐことができるよう、情報交換を密にするとともに、子どもの発達や学びの連続性についての話し合いを通して、教職員の相互理解を一層深めていきたい。そのためには、関係課との連携が重要である。また、子ども同士の交流活動については、教職員が互いにねらいを明確にもち意図的・計画的に取り組んでいくことが必要である。
	○中高の連携 ・板津中学校と小松明峰高校	板津中学校と小松明峰高校で、英語教育に関する中高連携が進められた。中高の教職員の資質向上や授業改善にもつながる有意義な取組である。今後も他の中学校と高等学校の連携や継続的な取組が望まれる。

6 その他	○勝木賞基金事業【1・2・3・4】 ・2月 3日 勝木賞選考委員会 ・2月26日 勝木賞授与式 4名に授与	故勝木保次博士の浄財による基金から、科学に対する興味・関心が高く、且つ研究意欲に富み、人文・自然科学ともに学業成績優秀な中学3年生に勝木賞を贈っている。25年度は、勝木賞選考委員会の厳正なる審議を経て、教育委員会と市長が協議し、4人の中学生に勝木賞を授与することが決定した。 全国的に科学への興味や関心の低さが課題となっているが、勝木賞は、自然科学等に関心をもつ生徒の憧れの賞であり、受賞者の喜びは大きく、その後の進路や生き方に大きく寄与している。 市としても、人文・自然科学の振興のための施策を充実していくことが重要である。 H25年度の受賞決定の本人・保護者への連絡が、教育委員会会議(2/19)の決定を待ち、福文報告(2/21)後に学校を通じて行ったため遅くなった。今後、教育委員会で決定次第、直接保護者に知らせる。また、内定通知を早めに出せないか検討したい。
	○広域通学モデル校事業【2・3】 ・募集案内のチラシを小・中学校保護者に配布 ・11月12日・1月10日 西尾小学校説明会 ・1月16日 松東中学校説明会 平成25年度 広域通学/在籍児童生徒 西尾小学校 29人/46人 松東中学校 18人/100人	西尾小学校、松東中学校をモデル校に指定し、児童生徒や保護者の学校選択のニーズに対応し、通学区域外の児童生徒を受け入れている。西尾小学校では、小規模校のメリットを生かした少人数指導、地域との連携による体験活動などを活発に実践している。松東中学校では、学区内の小中連携教育を展開し、外国人講師による英語指導や教師の小・中交流授業で学力向上を目指している。この制度により、地域の活性化にも大きな役割を果たしている。 H22年以降、西尾小学校の児童数が年々減少しているため、広域通学の応募者数を増やすことが課題である。今後も説明会を2回開催し、一人でも多く広域通学の制度・魅力を知らせていくことが重要である。26年度についても、広報「こまつ」に募集案内を掲載する。
	○広報「教育こまつ」の発行 小松市の教育活動を知らせる広報誌として「教育 こまつ」を作成し、市内全教職員をはじめ、教育関係者や関係機関に毎月1回配布している。	教育委員会の各種事業の実施状況や市内小・中・高等学校の教育実践を紹介する広報誌として昭和43年に発刊以来、551号(3月時点)を数える。 小松の教育状況を市内教育関係者及び市議会と共有する貴重な資料としてその価値は高い。 今後も発行を継続するとともにさらなる紙面の充実、保存・管理が重要である。
	○こまつ子ども歌舞伎継承事業【4】 25年度上演校 中海中学校	市内中学校の持ち回りによる「勸進帳」の上演も 28回目となり、3巡目を迎えている。25年度は、中海中学校が上演した。 保護者、地域住民にも公開され、地域と一体になって伝統文化財産を共有する機会としても大きな価値を持っている。 今後も学校規模に応じた生徒主体の取組を工夫する必要がある。
	○いしかわ学校版ISO	市内全小中学校が「いしかわ学校版環境ISO」に参加し、各校では、環境行動計画書に基づき、実践が行われた。 西尾小学校、苗代小学校、稚松小学校、串小学校の4校が地球温暖化防止優良活動で県から表彰を受けている。

施策2 教育環境の整備充実

<学校施設の整備充実>

〈方針〉 学校施設・設備の適正な管理，多様化する学習内容に対応した施設の整備，災害避難施設としての機能を有する学校の施設整備を推進し，安全・安心な教育環境を目指す。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 安全・安心な学校施設の整備充実	○ 小中学校エコ改修事業(屋内運動場) 犬丸小，第一小，今江小，日末小，栗津小， 矢田野小，国府小，芦城中(講堂、武道場)， 丸内中，御幸中，南部中，安宅中，板津中	照明器具をLED化することにより，電気使用量やデマンド，電球等の交換費用が削減された。
	○ 小学校空調復旧事業 稚松小	老朽化した空調設備を更新し，快適でしっかりと学習に取り組める教育環境を整備することができた。
	○ 中学校プール改修事業 丸内中，松陽中，御幸中，中海中，板津中	生徒の安全確保と衛生面の向上を図るため，老朽化した中学校プールを改修した。 今後も学校体育施設については計画的に改修を実施し，施設の長寿命化を図る必要がある。
	○ 遊具整備事業 芦城小，稚松小，安宅小，犬丸小，第一小，日末小 符津小，月津小，国府小，西尾小，東陵小	児童の安全確保及び体力向上を図るため，H24～26年度にかけ遊具を整備する事業で，最終年度である26年度は11校危険遊具の撤去，修繕及び遊具5種(鉄棒，雲梯，すべり台，プランコ，ジャングルジム)の未設置校への遊具設置を実施した。これで全ての小学校に遊具5種を設置した。 今後も点検を実施し，遊具の適切な維持管理に努めたい。
	○ 小中学校体育館リニューアル事業 栗津小，矢田野小，御幸中	老朽化した屋内運動場のトイレをバリアフリー化・洋式化したことで，教育環境の向上が図られたばかりでなく，避難所としての防災機能強化も図ることができた。
	○ 太陽光発電設備設置事業 串小	子ども達の環境意識を高めるとともに，エコ教材としての活用を図りたい。
	○ 小中学校フィールド芝生化事業 蓮代寺小，国府小	児童が積極的に屋外で活動する機会が増え，環境やエコに関する興味や関心を抱く児童も増加した。 今後も児童の健康増進や体力向上，環境教育の一環として芝生化事業を推進したい。
	○ 学校施設環境整備事業 小中学校施設の小規模改修・修繕を実施し，安全・安心な教育環境の改善に努めた。	学校は，児童・生徒の学習と生活の場であり，また，人間性を育むための場所でもある。年間100件を超える施設改修を行い安全・安心な施設環境の維持に努めた。 改修の必要な施設が多くあり，今後も計画的に安全・安心，衛生面を優先的に施設修繕を実施していきたい。
2 安全・安心な学校管理	○ 学校施設保安管理事業 小中学校施設設備の保守点検等を行い，安全・安心な教育施設の維持に努めた。	児童・生徒が一日の大半を過ごす学校が，安全で安心な学習と生活の場であるために，学校設備の保守点検を実施した。また，仕様書を見直す等して経費の削減を図った。
	○ 小中学校運営事業 各小中学校が学校ごとに配当された予算の中で，自主的に教育環境の維持管理に努めた。	各学校独自の予算配当により，それぞれの学校において，自主性を持った教育の遂行が可能となっている。 限られた予算の中で，効率的で有効な予算執行により教育環境の充実を図る必要がある。

施策3 生涯学習の振興

<思いやりと生きがいに満ちた活力ある地域社会づくりの推進>

〈方針〉 市民の学習意欲の高まりと多様化するニーズに応え、一人一人が思いやりと生きがいに満ちた生活を創造できるよう、活力ある地域社会づくりに努めるとともに、生涯学習、ボランティア活動の推進等、時代の進展に対応した学習機会の確立を目指す。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 社会教育委員	○ 社会教育委員の設置【1】 行政と住民のパイプ役となり、住民の代弁者的役割を有し、社会教育計画の立案を行い、社会教育事業を推進する。 ・社会教育委員 10名 ・会議の開催回数 4回	社会教育法に基づく社会教育全般への提言、青少年教育に対する助言・指導を実施していくよう、小松市の現状や問題点、今後のあり方等を課題としてとらえ、調査・検討したい。 県社会教育委員研究協議会における平成26年度の奨励研究発表で、「木場潟」をテーマに発表した。
	○ 社会教育賞選考委員会【1】 社会教育の振興に尽力し、地域社会の発展に貢献した個人、団体に社会教育賞を贈る。 ・10月 1日 選考委員会 ・11月 25日 社会教育賞表彰式 5名	社会教育賞の選考においては、各団体等からの推薦に基づき、厳正かつ公正に行っている。
2 生涯学習推進体制の充実	○ 公民館活動事業【1】 ・公民館組織 中央公民館 1館 地区公民館(市立公民館・校下公民館) 35館 各町分館 227館 ・公民館活動 各種機関との連携 各種学級や講座 スポーツ・レクリエーションに関する各種の大会・集い 住民による施設利用 ・公民館職員研修 館長・主事研修、ブロック研修、派遣研修等	地域の連携と自治力を強め、地域に根ざした生涯学習活動を進めるため、各種教室や主催事業の開催、生涯学習情報の収集と提供、地域活動事業への支援を行っている。 今後も各地域の取り組みに対して指導・助言する一方、公民館相互の交流を図ることで、地域全体の生涯学習活動の活性化につなげたい。 また、多様化する住民ニーズを的確にとらえ、より一層、地域の実情に応じた生涯学習活動を推進していきたい。
	○ 生涯学習施設の運営【1】 ・小松市芦城センター 平成26年度利用者数 63,217人 (対前年比 △537人) ・小松市第一地区コミュニティセンター 平成26年度利用者数 52,243人 (対前年比 △11,851人) ・西俣自然教室 平成26年度利用者数 1,145人 (対前年比 +287人) ・丸山研修センター 平成26年度利用者数 75人 (対前年比 +5人)	各種サークルや団体の生涯学習活動や地域のコミュニティ活動の場として、多くの市民に利用されている。平成23年度より、施設使用料を有料化した。今後も施設の有効活用を図っていきたい。 夏季には子ども会や青少年団体等の利用があり好評である。今後とも、施設の充実を図っていきたい。 山間部という立地条件もあり、利用者数は少ない。施設の今後の在り方を検討した結果、平成27年度から丸山町町内会へ施設の維持管理業務を委託することとなった。

2 生涯学習推進体制の充実	・図書館 平成26年度貸出者数 64,761人 (対前年比 +64人) 平成26年度貸出冊数 262,556冊 (対前年比 △2,121冊) ・南部図書館 平成26年度貸出者数 29,181人 (対前年比 △335人) 平成26年度貸出冊数 114,633冊 (対前年比 △451冊) ・視聴覚ライブラリー 各種地域団体に対して視聴覚教材及び機器の貸出を行っている。 ・空とこども絵本館 平成26年度入館者数 30,033人 (対前年比 △128人) 平成26年度貸出冊数 26,947冊 (対前年比 △1,303冊) ・絵本館ホール十九番館 平成26年度入館者数 3,837人 (対前年比 △447人)	「こまつ市民読書の日」の関連行事として、毎月23日を中心に講座を開催。市民が図書館を訪れ読書のきっかけづくりとなることをねらいに、今年度は大人対象の「掌講座」に加え、子ども対象の「キッズ講座」も開催し、好評であった。 「新子ども読書活動推進計画」を継承する「こまつ市民読書活動推進計画」を年度末に策定。これまでの推進計画は子どもだけを対象にしていたが、「こまつ市民読書の日」制定決議の趣旨を踏まえ、対象をすべての市民に拡大した。今後、この計画を指針として、読書活動の推進を図っていきたい。 教材メディアの変化やデジタルツールの普及などにより、ライブラリーの利用が減少している。 新しいメディアへの転換などが検討課題である。来年度は、16ミリフィルムのデジタル化に取り組み、貴重な郷土資料の保存・提供を図っていきたい。 絵本を仲立ちに、家族の語りかける言葉を通して子どもが絵や物語に出会い、豊かな時間を過ごすことができる施設であり、乳幼児期からの心と言葉の育成に大きな効果が期待できる先進的な施設として、高い評価を得ている。 絵本を介して、親子が楽しく過ごす一環としてのイベントの開催や、読んでもらう楽しさを十分に味わえるよう、種々に工夫したおはなし会などを行っている。 文化的イベントの開催会場としての利用が徐々に増加し、小規模ではあるが文化行事の発信施設として市民に認知されつつある状況は評価できる。児童文学者松居直氏より、寄付を受けた資料を展示し、市民グループと一体となって絵本の魅力を発信するよう努めている。
	○ 学校開放推進事業【3】 市内小学校25校の体育館・運動場、中学校10校の体育館を学校教育活動に支障のない範囲で開放し、市民の生涯スポーツ活動の場として提供する。 ・平成26年度利用者 210団体 (対前年比 △4団体)	学校体育施設の開放に伴い、各学校に管理指導員を配置して使用団体の日時の調整にあたっている。管理指導員の方々と情報交換をしながら施設の適正な利用がなされるよう努めた。市民の生涯スポーツ参加と健康増進に寄与している。
	○ 成人式事業 新しく成人となった若者を祝い励ますとともに、社会の一員となることの認識を促すため成人式を開催する。新成人による成人式実行委員会を組織し、式典の企画・運営に携わってもらう。 ・第67回小松市成人式 日時:平成27年1月11日(日)11:00～ 場所:小松市末広体育館 出席者:新成人1,015名 保護者・来賓	「自分たちで作る成人式」という意識のもと、アトラクションの製作や当日の運営にあたった。厳粛な雰囲気の中、円滑な式典の進行ができ、アトラクション・式典ともに好評であった。 ただ毎年のことではあるが、式典が始まる直前まで成人がなかなか着席しないので、今年度はブザー等利用して早めの着席を促したが、場外にいと聞こえないため、まだ改善が要される。今後プラカードなどで視覚的にもわかりやすく促せるようにしたい。 また実行委員募集については、4月に新成人宛てにはがきを送付して募っているが、応募が少なく、当時の担任に紹介してもらっているのが現状である。

2 生涯学習推進体制の充実	○ 人権教育推進事業【2】 ・人権啓発学習用リーフレットの作成 小学1年生、小学4年生、中学1年生の児童・生徒全員に配付	学校の授業や人権について家庭で話し合う資料として活用されている。 リーフレットについては、毎年、学校にアンケートを取っており、意見・要望があった場合は学校教育課と協議のうえ、改訂を行っている。
3 活力ある地域づくりの推進	○ グッドマナーキャンペーン事業【2】 青少年の公共マナー等に対する規範意識を高めるために、心の教育推進協議会が中心となり、「心の教育」に関わる協力機関・団体・市町・中高等学校と連携、協力し、声かけ運動を行う。 ・9月16日～22日 3駅・市内各中学校・高校における活動	1週間の強化週間を設定し、市内3駅、6高等学校・全中学校においてあいさつ運動とマナー向上のよびかけを行った。各市民団体から約400名の参加協力をいただき、県内では際立って多くの参加人数でキャンペーンを展開することができた。 また、JR小松駅の協力と小松警察署員・各高等学校担当者の参加により実施した小松駅構内・電車内巡視活動では、実際に電車内の様子を巡視するとともに、駅と高校との連携について意見交換がなされた。
	○ 学校・家庭・地域連携推進事業【4】 地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得て、学校・家庭・地域の連携協力による様々な取り組みを推進し、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。	平成25年度より、安宅小学校、日末小学校の2校を学校支援地域本部実践推進校として指定し、それぞれの学校の実態にそった支援活動がなされるよう計画と実践を進めた。 また、平成26年度より中海小学校区において土曜学習を実施し、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現した。 今年度以降も、公民館を中心として、PTAや学校等と連携した地域での学習活動を推進し、活動の充実と対象地区の拡大に努めたい。
4 青少年の健全育成	○ 少年育成センター事業【3】 少年の育成活動を総合的に推進し、少年の非行を防止するとともに、その健全な育成を図るもの。	少年の健全な育成・非行防止のための、早期発見及び早期指導として育成員による日々の巡回パトロールを行っている。育成員による子ども達への声かけが増えることにより、防犯への意識づけがなされている。 また、研修会では地区ごとに分かれて意見交換会を行うことにより、各地区の危険箇所や有害環境を確認することができた。
	○ 「早寝早起き朝ごはん運動」事業【3】 子どもたちの生活のリズム向上と、家庭・地域の教育力を高めることを目指し、「大人が変われば子ども変わる。」をスローガンとして、運動を推進する。 ・市民大会の開催(平成26年11月16日) ・「我が家の標語」「我が家の朝ごはん」「ポスター・絵画」の募集と表彰 ・リーフレットの配付 ・生活習慣チェックシートの実施 ・カレンダーの配付(市内全戸) ・地域でのラジオ体操活性化の取組の募集と表彰 ・幼保小へののぼり旗の配布	地域におけるラジオ体操活性化の取組募集では、地域の子どもたちに「早寝早起き朝ごはん運動」を広める取組や地域の行事と連携した取組が寄せられ、市民大会において、標語やポスター、朝ごはんレシピの部門とともに表彰した。 また、近年は携帯電話の長時間使用により、生活リズムが乱れつつあると指摘されており、これまでは朝ごはんに重点を置いていたが、早寝早起きに関しても一層の啓発が求められる。

4 青少年の健全育成	○ わくわく・ちゃれん寺事業【4】 子どもが人と触れ合う機会や、伝承文化や伝統遊び、ふるさとの良さに触れる機会が減少してきている。そこで、地域にあるお寺を伝統文化を学ぶ場として活用し、子ども同士や子どもと大人が触れ合う良い機会とし、地域の活性化を図る。 ・6月～12月 33回開催(対前年比+1回) ・協力団体11 協力寺院6 ・参加人数 子ども528人 大人309人 (対前年比 子ども △61人 大人 +11人)	事業開始から10年目を迎え、さらに充実した教室となるよう平成26年度から名称を「わくわく・ちゃれん寺」と改めた(平成25年度までの名称は「お寺子ども教室」)。協力団体が増え、充実した教室を開催することができた。教室の良さが市民の間に浸透してきているようである。 今後も、伝統文化や伝統遊びが継承されていくように内容を吟味し、ふるさとの良さに触れてもらい、特色ある地域の活性化を図っていきたい。
	○ サマー・アドベンチャースクール事業【3】 自然体験活動を通して、自然を愛する心を育てるとともに、自然の中での共同生活を通して自主性や社会性を養う。 期 間 7月26日(土)～8月2日(土) 7泊8日 場 所 大杉冒険のとりで 参加者 小学5年～高校2年 33名 (対前年比+10人)	「力を合わせて生活すること」に重点をおき、日々の食事づくりを始めとして多くの活動で、参加者が自主的に取り組むように指導した。 常に危険と隣り合わせであるという意識を持ち、また、会場外の状況についても情報を得て、健康・安全管理を徹底し、いざというときに迅速に対応できるよう努めたい。 また、参加者が減少傾向にあるため、募集の際には各小・中学校に出向いてお願いしたり、チラシを工夫したりして参加者増加を図っていきたい。
	○ 青少年教育施設の運営【3】 ・里山自然学校大杉みどりの里 平成26年度 利用団体 176団体 (対前年比 △21団体) 利用人数 10,054人 (対前年比 +398人)	主な利用者は、小学校や子供会などの青少年団体等であり体験宿泊学習に利用される。また、年々高校の勉強合宿が増えている。 主催事業については、昨年からの雪まつりの継続実施のほか、野外体験の初心者講座として「登山入門」「幼児の野外遊び体験」「リバーアドベンチャー(川遊び)」を新規に行った。 今後の課題として、地域全体を利用した魅力あるプログラムの開発を行うことや、閑散期の利用促進のために企業研修や勉強合宿などの誘致を行う。
	○ 管理運営事業【2, 4】 「小松っ子を育てる市民会議」へ交付金を交付 ・家庭教育講演会共催 ・機関誌 年1回発行 ・青少年健全育成看板の設置・補修	小松市民が一体となって青少年の健全育成について協議、連絡提携を図り、幅広い活動を展開している。 平成25年度には、小松の子どもたちの指針となるべき「小松っ子憲章」が制定された。今後、この憲章の普及啓発を図っていきたい。
	○ 青少年育成団体活動への支援事業【2】 青少年健全育成団体へ運営補助金を交付 ・小松市子ども会連合会 ・小松市立学校PTA連合会 ・青少年自然教室協会 ・日本ボーイスカウト小松協議会 ・小松市少年少女科学教室・発明クラブ	青少年に対し組織的に教育活動を行う団体へ運営助成をすることにより、幅広い地域の青少年健全育成活動が実施された。

施策4 文化振興

<伝統文化の継承と新しい文化の創造・発信>

〈方針〉歴史的・伝統的な文化を保存継承し、固有の文化を誇りとする郷土愛を育み、それを礎として新しい文化を創造・発信する。また、優れた文化に接する機会の充実をはかるとともに、地域における個性的な市民文化の高揚を支援し、心の豊かさを実感できるような環境整備を目指す。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 文化財の保護と活用	○ 重要文化財保存修理事業【4】 国庫補助事業による重要文化財の保存修理 ・那谷寺書院及び庫裏ほか2棟保存修理 重要文化財建造物の那谷寺書院及び庫裏・護摩堂・鐘楼について屋根葺替・部分修理を平成 24・25・26 年度の 3 ヶ年度で実施。事業主体是那谷寺。国・県・市より補助。 ・琴棋書画沈金文台・花鳥沈金硯箱保存活用整備事業(小松天満宮宝物館建設工事) 国土交通省が行う梯川改修事業に伴い、小松天満宮の敷地内にある既存の宝物館の取り壊し・移転が必要となった。これにより、敷地内の別の箇所に新たに宝物館を建設し、重要文化財である琴棋書画沈金文台・花鳥沈金硯箱を収蔵する。なお、当事業は平成 25・26 年度の 2 ヶ年度にわたって実施。事業主体は小松天満宮。国・県・市より補助。 ・小松天満宮本殿、石の間、幣殿及び拝殿ほか1棟防災施設等事業(新規) 国土交通省が行う梯川改修事業に伴い、小松天満宮の防災施設である貯水槽・ポンプ室に移転が必要となった。既存の貯水槽が現在の文化庁の基準に満たないこと、設置後 30 年以上経過していて防災施設が老朽化していることもあり、これを機に防災施設改修を実施。事業主体は小松天満宮。国・県・市より補助。	国民共有の財産である重要文化財は、国庫補助による保存修理が必要に応じて実施される。 那谷寺書院及び庫裏ほか2棟については、護摩堂・鐘楼が30年ぶり、書院及び庫裏が約50年ぶりの修理であり、近年、修理が望まれていたものである。26年度は護摩堂・鐘楼の修理を行い、26年8月に事業を完了。予定どおりに実施された。 25年度より継続して実施し、27年1月に事業を完了。予定どおりに実施された。 26年6月より事業に着手し、27年2月に完了。予定どおりに実施された。
	○ 文化財保存管理事業【4】 文化財指定や指定文化財の保存修理・活用等を行い、広く市民に文化財愛護精神の普及をはかる。 ・文化財調査委員会の開催(2回) ・市指定文化財の保存修理等に対する補助 ・指定史跡「浅井堰古戦場」「御幸塚古墳」「埴田の虫塚」の管理委託 ・指定文化財看板・標柱の整備 ・ホームページを活用した文化財の普及啓発 ・憩いの森内にある中村家(国指定民俗有形文化財)と米谷家(未指定茅葺民家)の管理・活用 ・市指定文化財「埴田の虫塚」擁壁工事	文化財指定は2年に1度であるため、26年度の指定物件はないが、文化財調査委員会を開催して指定作業を進めている。 指定文化財の修理補助等は、保存・継承を図るための取り組みが適正に行われている。 指定文化財の看板・標柱の整備は、老朽化したものから順に整備を行い、文化財の普及啓発に努めている。なお、ホームページを活用した普及啓発にも努めているが、まだ市内の指定文化財すべてを網羅するに至っていないため、さらなるホームページの充実を図る必要がある。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 文化財の保護と活用	○ 埋蔵文化財センター活動事業【4】 埋蔵文化財の調査成果を広く市民に公開し、埋蔵文化財保護意識の啓発をはかる。 ・特別講演会「近世町屋の陶磁器」(参加者90名) ・フォーラム「日本海を行き交う弥生の宝石in小松」(参加者112名) ・特別体験講座:矢づくり、縄文土器づくり、弥生土器づくり、藍の生葉染め、染め付けと色絵、琥珀の勾玉づくり(定員計150参加者258名) ・古代体験まつり(夏・春、定員計400参加者500名) 小学生の夏・冬期間中に合わせて開催した親子参加型の古代ものの作り体験イベント ・出前考古学教室(参加者2,615名) 学校、公民館等の派遣要望により考古学教室開催(32カ所で実施) ・年4回の特別展を実施(展示観覧者5,338名) 「こまつのむかし～梯川と加賀三湖～」 「埋もれていた小松町屋の暮らし」 「玉と埴輪」 「木木考古学」(翌年度へ継続開催) ・市民考古楽講座(参加者81名) 加賀国府を考えるpart3(2/20) 古墳を見つける山歩き(3/22・24) ・普及・啓発の広報活動 6年生社会科教科書用「こまつまいぶん歴史年表」の発行と配布	・出前を含む利用者数としては25年度の12,421人に対して12,716人とやや増となっている。 展示観覧者は、前年の4,847人から約500人増となり、出前展示として実施した小松市立博物館「大八日市地方遺跡展」の入館者1,591人、サイエンスヒルズでのシンポジウムに併せた公開展観覧者845人を含めると、7,200人に達し、全国的に大きくアピールできたと評価したい。この点は、H26のホームページアクセス数ランキングにおいて、市内施設で第5位に躍進したことからも追認できる。 また、昨年の反省から、本年度の目標として地元意識に根ざした題材を企画展に掲げ、「加賀三湖と梯川」そして「小松城下」をテーマとした。いずれも昨年を上回る展示観覧で、成功と言える。 特別体験講座は、いずれも定員を大きく超える申し込みとなっている。 H24から新たな取り組みとして始めた市民講座「加賀国府を考える」は、今回開催の目的を国府推定地への地元説明を主眼とした。地元から協力の輪がひろがるように努めたい。 市内小学校利用は、親子レクリエーションを含めて17校から19校に、授業では10校から13校へと増加傾向にある。さらなる増加を目指し、次年度の小学校6年生用に小松オリジナルの歴史年表を作成した。効果的な利用を課題としたい。
	○ まいぶん魅力アップ推進事業 授業に活用できるよう、再修復作業や教材整備を進め、また、重要資料のネット配信を進める。 ・再修復個体は160点。 ・復元教材は鉄器6点(刀・剣・鏃・斧・鎌) ・ネット配信用データベース作成(エジリ埴輪)	学習教材として活用できる資料は充実してきている。各学校の地域ごとに資料を整備することで、郷土理解を深めることを目指している。 小松独自の歴史年表を作成したことから、連携した資料整備を次年度以降の課題として取り組みたい。
	○ 古代体験学習活動事業【4】 市民に開かれた施設として、センターを活用した古代体験活動希望者の受け入れを休館日以外の毎日行う。 ・古代体験(5,544人) 1名の臨時職員を雇用し、勾玉づくり、組み紐体験を通年実施。また、火起こし、土鈴づくり、かごづくり、あんぎんを期間限定で実施。	無料で実施される古代体験は、センター入館者増に大きく貢献している。H22は4,202人、H23は4,392人、H24は4,661人、H25は5,523人、そしてH26は5,544人と増加傾向を維持できた。 対応臨時職員が1名減となり、お元気シニア体験は対応を縮小せざるを得なかった。しかし、発掘調査が少なかったこともあり、職員の協力体制により、5千人を超える体験者数を維持できたことを評価したい。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 文化財の保護と活用	○ こまつ原始の樹木科学シンポジウム開催事業【4】 (新規) 科学と交流のまちとして、また、全国植樹祭が開催されるまちとして、八日市地方遺跡出土木製品にスポットをあてた科学分析と樹木のシンポジウムを開催。 ・最新の科学分析の実施 樹種同定・AMS放射性炭素・年輪セルロース酸素同位体比・胎土分析・蛍光X線分析・石材分析 ・シンポジウム科学分析でここまでわかった八日市地方遺跡 小松式土器の時代 ～樹木からのアプローチ～」開催 11月22・23日 会場:サイエンスヒルズこまつ 特別展示入場者:2日間延べ845人 シンポジウム参加者:2日間延べ414人	八日市地方遺跡について最新の科学分析を行い、その成果を遅滞なく公開できた。 シンポジウムは、自治総合センターから2,000千円の100%助成で実施し、市内を除く県内から94名、市外からは74名が2泊3日で小松に滞在したことから、経済効果としても大きかった。 シンポジウム自体についても、学史に残る画期的な内容であったと高い評価を得た。その後も、小松開催のシンポジウムを基準とした取り組みが全国に広がりを見せており、全国に八日市地方遺跡の存在を印象づけた点が評価できる。 学会における高い評価は、今後の市民・一般向け書籍掲載への確実な布石となると期待される。
	○ 埋蔵文化財保護調整事業【4】 ・開発事業との調整協議(140件) ・事前試掘調査・立ち会い調査(39件)	本年度は協議が減少し、また、工法等の調整が図られ、発掘調査に至る事案が無かった。昨年度に発掘調査が集中したことで積み残しとなった出土品整理の進捗がはかられたことを評価したい。
	○ 埋蔵文化財発掘調査・出土品整理事業【4】 ・市内遺跡緊急発掘調査 緊急発掘調査 0件 ・遺跡出土品の整理・報告書刊行 国庫補助による市内遺跡緊急発掘調査を実施した遺跡の出土品整理(4件)と発掘調査報告書の刊行(1冊、二ッ梨豆岡向山窯跡・小松城跡・薬師遺跡・本折城跡)を実施。 市単独事業として八日市地方遺跡の出土品整理を実施。 ・重要遺跡確認調査 白山中宮八院確認調査の最終段階となる長谷町蓮華寺跡の確認調査を実施。	本年度は、個人住宅等で遺跡保護のための工事計画調整がスムーズに進み、発掘調査に至る案件が無かった。そのため、昨年、多くの発掘調査により山積していた出土品の整理作業を積極的に進めることができた。 また、発掘調査報告書についても、計画どおり刊行することができ、次年度作業に余裕をもって対応できる体制が可能となった点を評価したい。 昨年度は、緊急発掘調査が集中したため実施できなかった重要遺跡確認調査(蓮華寺)について、本年度は、着実に進めることができた。出土品も検出され、伝承地の解明に大きく前進した。この調査は、白山中宮八院探求の最終調査と位置づけていたが、2023年に加賀立国1200年にあたることから、次年度から発展的に調査を位置づけ直す必要がある。加えて、これまでの成果を市民に還元する方策を検討することが課題となっている。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 文化財の保護と活用	○ 市史編纂事業【4】 新修 小松市史 資料編の発行及び資料の収集・保存 ・Ⅱ期10巻の2巻目として「美術工芸編」を発刊。原始から近代まで、時代の流れに沿って当市ゆかりの美術工芸品を紹介するもの。写真資料はDVDに収録。 ・美術工芸・近世村方・産業・建築部会が調査活動中。 ・広く誰でもどこでも見られる市史を目指し、小松市HPで市史を発信。まず『図説 こまつの歴史』より紹介。 ・年2回(6月・11月)の市史講座と3回シリーズの古文書講座(2～3月)を開催。	Ⅱ期より附録としてDVDを付けている。本文がモノクロのため、特に、「美術工芸編」は、作品に色彩がなければその良さを伝えられないため、写真資料はDVDに全て収録し、カラーで紹介している。これまで口絵の8頁のみがカラーによる紹介であったがDVDを利用することで、視覚による資料紹介ができるようになった。 市史講座では、聴講者が100人を超えることもあり、市史への市民の関心が高まってきている。
2 伝統文化の継承	○ 子供歌舞伎勸進帳上演事業【4】 第16回全国子供歌舞伎フェスティバルin小松において子供歌舞伎「勸進帳」を上演。 第17回開催に向けての取り組み 12/14 役者オーディション 12/20 結団式 12/21より稽古開始 本番は翌年度5月4・5日 役者14名、長唄・囃子方27名 ボランティアスタッフ 約30名	役者と長唄・囃子方を市内から公募しており、役者経験者が舞台の裏方や長唄・囃子方にも継続参加するなど、伝統文化の継承に効果が現れている。 また、子どもたちの達成感においても教育的効果は高い。 なお、第17回においては、役者の応募数が20名と第16回と同様に多くの応募数となった。市長部局(文化創造課)で行われている歌舞伎未来塾などにより、歌舞伎をはじめとする伝統文化が市民に普及されている。
3 文化施設の活動充実	《尾小屋鉱山資料館・尾小屋マインロード・ポップオ自動車展示館》 ○ 尾小屋鉱山資料館管理運営事業【4】 資料館・マインロード・ポップオ自動車展示館の3施設を管理運営。 入館者数4,649人(対前年比 △1,081人)	鉱山資料館においては新たな企画展は開催できず、26年度も1年を通して常設展のみとなった。展示のマンネリ化で入館者数が減少していることは否めず、外部団体の協力を得るなど、何らかの方法により入館者増を図る必要がある。 なお、尾小屋マインロードについては、安全点検、安全工事を実施し、安全対策に努めている。 ポップオ自動車展示館については、「なつかしの尾小屋鉄道を守る会」の協力を得て、展示車両の公開運転や電動トロッキの運転を実施し、来館者の増加に努めている。
	《河田山古墳群史跡資料館》 ○ 管理運営事業【4】 河田山古墳群の調査成果をもとに古墳時代専門の資料館として平成4年に開館。入館は無料。 入館者数928人(対前年比 △153人)	経費削減のため開館時間を短縮し、下校の子どもたちの入館が無くなったこと、また、古代体験もすべて埋蔵文化財センターに移行したこともあり、入館者は平成12年度の水準にまで下がることになった。 平成27年度より、加賀国府1200年を目指した取り組みとして、河田山古墳群の再発見と資料館のテコ入れに取り組む予定である。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
3 文化施設の活動充実	《こまつミュージアムパスの利用・入館》【1】 小松市内の文化施設を期間内に何度でも利用できる「パスポート」を平成24年度より新たに導入。26年度は「こまつミュージアムパス」としてカード形式とし、スタンプラリーと分けて実施。 (対象施設 11 施設) ・博物館/本陣記念美術館/錦窯展示館 宮本三郎美術館/ふるさと館/登窯展示館 ・メインロード/安宅の関ものがたり館 埋文センター/河田山古墳資料館 /曳山交流館みよっさ ・1週間券 500円 1年券 1500円 ・シニア券(1年間有効)市内65歳以上に無料発行 年間利用者数 ミュージアムパス 7,898人 (対前年比 +296人)	H24より共通券を廃止し、より広域に施設間の人の流れを作ることができるようにパスポート(各施設のスタンプラリーを兼ねる)を発行。 H26よりカード形式としてスタンプラリーと分けて実施。 利用者の38%が市内在住の65歳以上に配布するシニア券となっている。利用者数は、やや減少傾向。周知を行なう必要あり。 各館のより魅力的な企画が入館者数、利用者数の増加に繋がる。
	《博物館、市民ギャラリー・ルフレ》 ○ 博物館管理運営事業【1】 資料の調査、収集、保存、管理、展示公開及び報活動を行う。 ・博物館協議会、専門委員会	小松の歴史文化・自然科学の広い範囲にわたる多数の調査、収集、保存、管理、展示公開及び広報活動を行っている。学識経験者からなる協議会委員や専門委員会委員を開催し、多様な市民のニーズに答えられるよう努力。
	○ 市民ギャラリー管理運営事業【1】 博物館1階を市民の文化活動の発表、交流及び情報交換の場として貸し出している。 年間利用団体、個人数45団体(対前年比+6団体) 年間利用者数 19,112人(対前年比△10,008人)	利用料金が割安なことが利用率を高めている。 H26年度は、サイエンスヒルズの開館により利用団体が減少。
	○ 博物館活動事業【1】 研究紀要 Vol. 49の発刊 加南地方史研究会、小松市科学研究所への補助金を交付。	地域の文化活動・研究を援助し、博物館の調査活動などで連携を図っている。調査成果を紀要などによって広く発表。
	○ 博物館展覧会開催事業【1】 企画展7本、特別展1本を開催。 ・特別展「大八日市地方遺跡展」 10/11～11/30(入館者数 1,591人) ・年間総入館者数 6,476人 (対前年比 △5,746人)	埋蔵文化財センターと共催で「大八日市地方遺跡展」を開催。 館蔵品を中心とした企画展を年7回実施。ただし、特別展の開催が前年度より減少したため、入館者数が減少。 特別展と館蔵品による企画展を組み合わせ、より魅力的な展示を行なうとともに、関連イベントも実施し、館の知名度や入館者数の増加につなげる必要あり。

3 文化施設の活動充実	○ 美術品購入基金積立及び購入事業【1】	総合美術館建設を視野に、美術品を購入する準備金として毎年積み立てている。
	≪本陣記念美術館≫ ○ 本陣記念美術館管理運営事業【1】 本陣甚一氏より寄贈された美術品等を管理する。	20年度に遺族から新たに寄贈を受けた693点の美術品の調査を進め、順次企画展で紹介している。コレクションには、芸術的価値・歴史的価値の非常に高い作品も多数あることが判明してきており、コレクションの質の高さを、展覧会・ギャラリートークなどを通じて、市の内外に今後もアピールしたい。
	○ 本陣記念美術館展覧会開催事業【1】 ・館蔵品展年 4 回開催 ・特別展「生誕 120 年 武井武雄展」 8/23～9/28(入館者数 2,792 人) ・総入館者数 4,903 人(対前年比 △2,977 人)	収蔵品の核となる陶磁器や茶道具をとりあげた館蔵品展を開催し、コレクションの魅力を紹介。 宮本三郎美術館と共同で「武井武雄」展を開催 前年度より特別展が減ったため入館者の数が減少
	≪錦窯展示館≫ ○ 錦窯展示館管理運営事業費【1】 九谷焼の上絵付けに使用された錦窯を「錦窯展示館」として保存を行うとともに、古い町屋を生かした建物と庭の管理を行う。	遠方よりの来館者が多く、三代にわたる徳田作品の人氣も高い。小松駅から経由して芦城公園へと歩いて回る工夫が必要である。伝統工芸品である九谷焼と小松の町屋を「松雲堂」とともにアピールすることによって、中心市街地の活性化にもつなげてゆきたい。
	○ 錦窯展示館企画展開催事業【1】 ・企画展 「人間国宝 三代八十吉」 3/15～5/25(入館者数 494 人) ・企画展 「初代八十吉と中村研一」展 9/6～11/24(入館者数 396 人) 総入館者数 1,383 人(対前年比 △1,573 人)	特別展が行なわれず、企画展のみ実施。 近接する「松雲堂」との連携行事などにより入館者増に繋げることが必要。
	≪宮本三郎美術館、宮本三郎ふるさと館≫ ○ 宮本三郎美術館管理運営事業【1】 宮本三郎の母校である日末小学校での[宮本三郎まなび隊]結成に対しての援助・協力を実施。	当館から学校・団体に対してのアピールできておらず、受身の体制をとっているため、アートデリバリーを利用する学校・団体が少なかった。しかし、利用された学校・団体には好評である。
	○ 宮本三郎ふるさと館管理運営事業【1】 生誕地・松崎町内会との協働で「アートにチャレンジ」「凧作り教室」や様々な講座を月 1 回のペースで実施 (行事での参加人数 527 名)	

3 文化施設の活動充実	○ 宮本三郎美術館活動事業費【1】 宮本三郎美術館 年間2回の企画展開催 ・特別展「コレクターのまなざし～知られざる逸品・大京コレクション」7/5～8/10(入館者数 1,173 人) ・特別展「生誕 120 周年武井武雄の世界展」8/23～9/28(入館者数 3,840 人) ・特別展「宮本三郎と鴨居玲」10/11～11/24(入館者数 1,564) 総入館者数 10,099 人 (対前年比 +1,146 人) ふるさと館 年間3回の企画展開催 総入館者数 2,141 人 (対前年比 +333 人)	特別展を増加させたことにより、入館者が増加。 宮本三郎に視点をあわせた企画展と、視点の違う企画展を開催し、魅力ある展示を努めている。
	○ 企画展・特別展にあわせたイベントの開催 「デッサンの杜」ワークショップの開催 ・総イベント数 49 回 総動員数 1,557 人	「美術館内で模写をしよう!」「おいしいコンサート」など、美術に親しんでもらうイベント開催し、2階に新たに設けたエウ'オリュエ・エスパ°(研修室)にてミニ講座などを開催。将来の子供たちの美術・芸術人材育成を目的としたイベントを多く開催した。 「デッサンの杜」ワークショップは、宮本三郎記念デッサン大賞展のプレイベントで、「どろせん(ドローイング1000枚プロジェクト)」や「デッサン講座」など、計10回を開催。

3. 教育委員会会議および教育委員の主な活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

回(開催日)	会 議 内 容
平成26年第5回 (H26.4.16)	【議案第11号】 平成27年度使用小学校教科用図書設置要項について 【議案第12号】 平成27年度使用小学校教科用図書採択の日程について 【報告事項】 ・平成26年度小・中学校学級編成について(学校教育課) ・平成26年度加配教員配置状況について(学校教育課) ・平成26年度小松市教育センター事業計画について(教育センター) ・平成25年度進路先について(市立高校) ・寄附について(生涯学習課) ・平成26年度上半期スケジュールについて(埋蔵文化財センター) ・春季企画展について(埋蔵文化財センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館)
平成26年第6回 (H26.5.15)	【議案第13号】 社会教育委員の選任について 【報告事項】 ・平成26年度6月補正予算概要(教育次長) ・わかる授業プロジェクトについて(学校教育課) ・市内研究推進校及び発表校について(学校教育課) ・こまつグローバルゼミナール事業について(学校教育課) ・「十九番館お話の会」について(学校教育課) ・「こまつ街なか図書館」事業について(学校教育課) ・小松市小・中・高等学校運動会日程について(学校教育課) ・学校訪問について(学校教育課) ・小松市学校給食について(学校教育課) ・寄附の受納について(学校教育課) ・サマー・アドベンチャースクールについて(生涯学習課) ・土曜学習について(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) 【教育委員からの意見・提言】 ・子ども達の交通マナーの徹底と指導の強化。
平成26年第7回(臨時会) (H26.5.26)	【議案第14号】 小松市教科用図書採択について

平成26年第8回 (H26.6.16)	【議案第15号】 平成26年度優良PTA会員小松市教育委員会表彰について 【報告事項】 ・議会報告(教育長) ・寄附について(学校教育課) ・教育センター研究会について(教育センター) ・サイエンスワールドⅠについて(教育センター) ・宇宙の学校について(教育センター) ・サイエンスヒルズこまつ(ひととのづくり科学館)活用カレンダーについて (教育センター) ・教育相談リーフレットについて(教育センター) ・平成26年度英語検定受験状況について(市立高校) ・わくわく・ちゃれん寺について(生涯学習課) ・市史講座について(生涯学習課) ・夏季特別展について(埋蔵文化財センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・掌講座特別編について(図書館) ・第63号小松文芸作品募集について(図書館) ・寄附について(図書館)
平成26年第9回 (H26.7.17) 移動教育委員会会議として 小松市立高等学校にて開催	【議案第16号】 平成26年度教育委員会点検・評価報告書について 【報告事項】 ・ウォームアップ週間の計画について(学校教育課) ・サイエンスワールドⅠの実施報告について(教育センター) ・児童期、思春期子育て講演会について(教育センター) ・英語検定受験結果について(市立高校) ・サマー・アドベンチャースクールについて(生涯学習課) ・武井武雄の世界展について(生涯学習課) ・市史講座について(生涯学習課) ・こまつシニア体育大学アクア講座について(生涯学習課) ・寄附について(生涯学習課) ・古代体験夏まつりについて(埋蔵文化財センター) ・平成25年度大杉みどりの里利用実績報告について(大杉みどりの里) ・夏休み期間中の開館時間について(図書館) 【協議事項】 ・学校給食業務の民間委託導入について(学校教育課) ・平成26年度小松市教育功労賞候補者について(教育庶務課) 【教育委員からの意見・提言】 ・グランドの芝生化については、学校や子ども達、保護者が協同による植栽の継続を。 ・先生方の仕事量の軽減化。

平成26年第10回 (H26.8.19)	【議案第17号】 学校管理規則の一部改正について 【議案第18号】 児童生徒の出席停止の命令の手続きに関する規則の一部改正について 【報告事項】 ・武井武雄の世界展オープニングセレモニーについて(宮本三郎美術館) ・平成27年度市立高校使用教科書について(学校教育課) ・教職員負担軽減行動指針について(学校教育課) ・携帯電話等にかかるアンケート結果について(教育センター) ・ふれあい学習教室について(教育センター) ・平成26年度体験入学について(市立高校) ・グッドマナーキャンペーンについて(生涯学習課) ・サマー・アドベンチャースクールについて(生涯学習課) ・アクア講座について(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・9月補正について(教育次長) 【協議事項】 ・土曜授業について(教育次長)
平成26年第11回(臨時会) (H26.8.25)	【協議事項】 教科書採択について
平成26年第12回 (H26.9.12)	【議案第19号】 学校保健事務の委任等に関する規則の一部改正について 【報告事項】 ・議会報告(教育長) ・小松市通学路安全推進協議会について(教育庶務課) ・ウォームアップ週間における成果と課題について(学校教育課) ・平成26年度卒業式の予定について(学校教育課) ・サイエンスフェスティバルについて(教育センター) ・ふれあい学習教室について(教育センター) ・下半期イベントスケジュールについて(埋蔵文化財センター) ・フォーラム日本海を行き交う弥生の宝石in小松について(埋蔵文化財センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) 【教育委員からの意見・提言】 ・教職員の服務規律の遵守 ・不審者情報等についての通達の徹底
平成26年第13回(特別臨時会)(H26.9.18)	教科書についての今後のあり方
平成26年第14回(臨時会) (H26.9.25)	【議案第20号】 教育委員長の選挙について 【議案第21号】 教育委員長職務代理者の指定について

平成26年第15回 (H26.10.16)	【議案第22号】 平成26年度小松市社会教育賞被表彰者について 【議案第23号】 里山自然学校大杉みどりの里条例施行規則の一部改正について 【議案第24号】 放課後児童クラブの改正について 【報告事項】 ・小松市教育功労賞被表彰者について(教育庶務課) ・就学援助費(新入学児童生徒学用品準備費)3月支給について(学校教育課) ・平成27年度広域通学モデル校制度の実施について(学校教育課) ・学校給食のあり方について(学校教育課) ・サイエンスフェスティバルについて(教育センター) ・英語検定合格状況について(市立高校) ・寄附について(市立高校) ・子供歌舞伎「勸進帳」出演者の募集について(生涯学習課) ・第64回市史講座の開催について(生涯学習課) ・シンポジウムについて(埋蔵文化財センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・お話宅配便20周年記念講演会について(図書館) ・(仮)「こまつ市民読書活動推進計画」の策定について(図書館) ・寄附について(図書館) 【教育委員からの意見・提言】 ・市立高校の教諭間の連携を密にした生徒の進学指導を望む。
平成26年第16回 (H26.11.20)	【報告事項】 ・「しらべてみよう！むかしのくらし」展について(博物館・美術館) ・九谷焼開窯360周年記念事業について(博物館・美術館) ・学力状況調査の結果の公表について(学校教育課) ・湯浅・中山賞研究発表会について(教育センター) ・教育相談親の会について(教育センター) ・センター研究会公開授業予定について(教育センター) ・ミュージックコンサートについて(市立高校) ・美術専攻の卒業展について(市立高校) ・語学研修について(市立高校) ・放課後児童クラブ利用人数見込みについて(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・12月補正について(教育次長) 【教育委員からの意見・提言】 ・自転車の安全教室の検討。 ・計画訪問の改善。 ・学力状況調査のねらい見失わないで。

平成26年第17回 (H26.12.12)	【報告事項】 ・企画展「博物館のお宝公開！」について(博物館) ・企画展「現代美術と画家たち！」について(宮本三郎美術館) ・全国学校給食週間について(学校教育課) ・平成27年度小松市奨学金受給者について(学校教育課) ・平成26年度勝木賞について(学校教育課) ・準教科書の採択について(学校教育課) ・教育相談ウィークについて(教育センター) ・思春期子育て講座について(教育センター) ・英語検定の結果について(市立高校) ・交通安全の取り組みについて(市立高校) ・立志式について(生涯学習課) ・第67回成人式について(生涯学習課) ・全国子供歌舞伎フェスティバル「勸進帳」の役者について(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・議会報告(教育長) 【教育委員からの意見・提言】 ・全国学力状況調査の結果公表の仕方、中身の検討を。 ・教科用図書の採択についてルールづくりを。
平成26年第18回 (H26.12.25)	【議案第25号】 教育委員長職務代理者の指定について
平成27年第1回 (H27.1.15)	【議案第1号】 中学校教科用図書の採択について 【議案第2号】 体育施設の利用方法の見直しについて 【報告事項】 ・博物館・本陣美術館の展覧会について(博物館、美術館) ・平成26年度勝木賞の授与式について(学校教育課) ・平成26年度全国体力・運動能力調査結果について(学校教育課) ・公開授業の開催について(教育センター) ・教職員ICT機器活用の実態調査について(教育センター) ・平成27年度高校入学検査要項について(市立高校) ・全国子供歌舞伎フェスティバルin小松子供歌舞伎「勸進帳」経過報告(生涯学習課) ・古文書講座について(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館)
平成27年第2回 (H27.2.19)	【議案第3号】 平成26年度勝木賞被表彰者について 【議案第4号】 平成27年度小松市奨学金支給奨学生について 【報告事項】 ・地方教育行政制度改革に伴う条例、規則の改正について(教育庶務課) ・学校給食関係について(学校教育課) ・平成26年度森山啓ジュニア文芸賞受賞者について(学校教育課) ・広域通学モデル校平成27年度募集結果について(学校教育課)

	・教育センター活用状況等について(教育センター) ・理科大好き青少年の育成に向けてのアクションプランについて(教育センター) ・平成27年度推薦入試出願状況について(市立高校) ・丸山研修センターの管理委託について(生涯学習課) ・学校体育施設開放事業について(生涯学習課) ・古代体験春まつりについて(埋蔵文化財センター) ・市民講座「加賀国府を考えるパート3」について(埋蔵文化財センター) ・市民考古楽講座について(埋蔵文化財センター) ・寄附について(埋蔵文化財センター) ・平成27年度大杉わくわく自然塾について(大杉みどりの里) ・大杉雪まつりについて(大杉みどりの里) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・こまつ市民読書活動推進計画について(図書館) ・平成26年度3月補正及び平成27年度予算案について(教育次長) 【教育委員からの意見・提言】 ・学校と教育委員会の連携をとり生徒指導の徹底を。 ・教育委員会に関する情報、資料、連絡等は早めに。
平成27年第3回(臨時会) (H27.2.19)	【議案第5号】 平成27年度準教科書採択について
平成27年第4回(臨時会) (H27.3.12)	【議案第9号】 教育長の辞職同意について
平成27年第5回 (H27.3.12)	【議案第6号】 小松市教育委員会会議規則等の一部改正について 【議案第7号】 小松市教育委員会事務決裁規程の一部改正について 【議案第8号】 小松市立小学校及び中学校の体育施設の開放に関する規則の一部改正について 【協議事項】 ・学校給食の今後のあり方について(学校教育課) ・平成27年度学校訪問実施要項について(学校教育課) 【報告事項】 ・博物館及び美術館の展覧会の開催について(博物館・美術館) ・芦城中学校給食室回転釜の事故について(学校教育課) ・小松市いじめ防止基本方針について(学校教育課) ・条例改正について(学校教育課) ・理科大好き青少年の育成に向けてのアクションプランについて(教育センター) ・平成27年度一般入試出願状況について(市立高校) ・英語検定受験結果報告について(市立高校) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・こまつ市民読書活動推進計画(図書館) 【教育委員からの意見・提言】 ・学校で生じた事故等について報告をしてほしい。

平成27年第6回(臨時会) (H27.3.19)	【議案第6号】 小松市教育委員会規則等の一部改正について 【報告事項】 ・事故の発生状況について(学校教育課)
-----------------------------	--

(2)教育委員が出席した主な活動内容

年月日	内 容
平成26年 4月 2日	新規採用教職員服務宣誓式(小松市役所)
平成26年 4月 4日	小松短期大学入学式(こまつ芸術劇場うらら)
平成26年 4月 6日	こまつドーム”ドリームピッチ”オープン記念式典(こまつドーム)
平成26年 4月 8日	小松市立高校入学式(小松市立高校)
平成26年 4月 9日	小松市立学校校長協議会(小松市役所)
平成26年 4月12日	小松運動公園リニューアルオープン記念式典(末広体育館)
平成26年 4月14日	小松市中学校体育協議会総会(芦城中学校)
平成26年 4月16日	第5回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年 4月21日	小松市立学校教頭協議会(小松市役所))
平成26年 4月25日	第1回石川縣市町教育委員会連合会理事会(金沢市)
平成26年 4月26日	芦城小学校講堂落成式(芦城小学校)
平成26年 4月26日	第一小学校校舎落成式(第一小学校)
平成26年 5月 7日	小松市学校教育研究協議会総会(芦城小学校)
平成26年 5月 8日	小松市学校保健研究協議会総会(第一地区コミュニティセンター)
平成26年 5月 9日	石川縣市町教育委員会連合会定期総会(金沢市)
平成26年 5月15日	第6回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年 5月23日	小松市特別支援教育振興会総会(第一地区コミュニティセンター)
平成26年 5月26日	第7回教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成26年 6月 2日	第2回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 6月 4日	学校計画訪問(蓮代寺小学校)
平成26年 6月 5日	学校計画訪問(東陵小学校)
平成26年 6月 6日	学校計画訪問(木場小学校)
平成26年 6月 9日	第2回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 6月10日	第2回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 6月16日	第8回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年 6月17日	学校計画訪問(串小学校)
平成26年 6月20日	学校計画訪問(矢田野小学校)
平成26年 6月20日	第2回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 6月23日	学校計画訪問(安宅小学校)
平成26年 6月24日	学校計画訪問(今江小学校)

年月日	内 容
平成26年 6月26日	小松市学校保健研究協議会総会(安宅中学校)
平成26年 7月 1日	学校計画訪問(苗代小学校)
平成26年 7月 2日	学校計画訪問(日末小学校)
平成26年 7月 5日	小松市中学校相撲大会(末広相撲場)
平成26年 7月 7日	学校計画訪問(国府小学校)
平成26年 7月10日	学校計画訪問(松東中学校)
平成26年 7月14日	学校計画訪問(国府中学校)
平成26年 7月14日	全国高校総合体育大会出場選手激励会(小松市役所)
平成26年 7月17日	第9回教育委員会会議(移動教育委員会)(市立高校)
平成26年 7月17日	市立高校懇談会(市立高校)
平成26年 7月20日	小松市民体育大会開会式(末広体育館)
平成26年 7月25日	小学校水泳記録会(末広屋外プール)
平成26年 7月27日	小松市 PTA 研究大会(こまつドーム)
平成26年 7月31日	小学校相撲教室(末広相撲場)
平成26年 8月 5日	石川縣市町教育委員会セミナー(金沢市)
平成26年 8月18日	教科書採択委員会(小松市役所)
平成26年 8月19日	第10回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年 8月25日	第11回教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成26年 8月28日	小松市体育協会加盟団体会長・理事長会(ホテルグランティア小松エアポート)
平成26年 8月29日	小松市立学校校長協議会(小松市役所)
平成26年 9月 1日	第3回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 9月 2日	第2回石川縣市町教育委員会連合会理事会(金沢市)
平成26年 9月 8日	第3回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 9月 9日	第3回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 9月12日	第12回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年 9月18日	第13回教育委員会会議(特別臨時会)(小松市役所)
平成26年 9月19日	学校計画訪問(荒屋小学校)
平成26年 9月19日	第3回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年 9月25日	第14回教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成26年 9月26日	学校計画訪問(市立高校)
平成26年 9月29日	学校計画訪問(能美小学校)

年月日	内 容
平成26年10月 1日	学校計画訪問(西尾小学校)
平成26年10月 1日	国民体育大会小松市選手団壮行会(小松市役所)
平成26年10月 3日	学校計画訪問(南部中学校)
平成26年10月 6日	学校計画訪問(板津中学校)
平成26年10月 8日	学校計画訪問(御幸中学校)
平成26年10月 9日	東海北陸六縣市町村教育委員会連合会理事総会(サイエンスヒルズこまつ)
平成26年10月14日	市長とのミーティング(小松市役所)
平成26年10月15・16日	教育行政視察研修(東京都狛江市、千葉県松戸市)
平成26年10月16日	第15回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年10月17日	石川県市町教育委員会連合会研究大会(輪島市)
平成26年10月20日	学校計画訪問(波佐谷小学校)
平成26年10月20日	新教育委員会準備会(小松市役所)
平成26年10月21日	学校計画訪問(金野小学校)
平成26年10月22日	学校計画訪問(第一小学校)
平成26年10月22日	市長とのミーティング(小松市役所)
平成26年10月28日	教育委員と事務局による新教育委員会に向けた研修会(小松市役所)
平成26年10月29日	研究発表会(中海小学校)
平成26年10月29日	市長とのミーティング(小松市役所)
平成26年10月30日	学校計画訪問(向本折小学校)
平成26年10月31日	学校計画訪問(符津小学校)
平成26年11月 3日	小松市文化賞贈呈式(こまつ芸術劇場うらら)
平成26年11月 4日	市議会(臨時会)(小松市役所)
平成26年11月 6日	加南地区教育委員会連絡協議会研究大会(川北町)
平成26年11月 7日	中学校古典教室(こまつ芸術劇場うらら)
平成26年11月 7日	教育委員と事務局による新教育委員会に向けた研修会(小松市役所)
平成26年11月12日	学校計画訪問(犬丸小学校)
平成26年11月14日	研究発表会(松陽中学校)
平成26年11月16日	「早寝早起き朝ごはん」小松市民大会(こまつ芸術劇場うらら)
平成26年11月18日	研究発表会(芦城中学校)
平成26年11月19日	市長との新教育委員会準備会(小松市役所)

年月日	内 容
平成26年11月18日	研究発表会(芦城中学校)
平成26年11月20日	研究発表会(芦城小学校)
平成26年11月20日	第16回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年11月23日	松陽地区「立志のつどい」(松陽地区体育館)
平成26年11月25日	小松市社会教育賞表彰式(小松市役所)
平成26年11月26日	研究発表会(稚松小学校)
平成26年11月27日	学校計画訪問(安宅中学校)
平成26年11月28日	研究発表会(丸内中学校)
平成26年11月29日	湯浅・中山賞研究発表会(第一コミュニティーセンター)
平成26年12月 1日	小松市功労3賞贈呈式(こまつ芸術劇場うらら)
平成26年12月 1日	第5回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年12月 1日	小松市スポーツ賞授与式(こまつドーム)
平成26年12月 3日	研究発表会(栗津小学校)
平成26年12月 8日	第5回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年12月 9日	第5回小松市議会定例会(小松市役所)
平成26年12月10日	第3回「人と地域を生かした道德教育講座」(板津中学校)
平成26年12月12日	第17回教育委員会会議(小松市役所)
平成26年12月14日	小松・能美卓球大会(桜木体育館)
平成26年12月18日	第5回小松市議会定例会(小松市役所)
平成27年 1月 6日	小松市立学校校長協議会(小松市役所)
平成27年 1月11日	小松市成人式(末広体育館)
平成27年 1月15日	第1回教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 1月27日	学校給食週間試食会(第一小学校)
平成27年 2月 1日	串小・日末小学校下立志式(御幸中学校)
平成27年 2月 1日	月津小学校校下立志式(月津町集会場)
平成27年 2月 1日	安宅中学校校下立志式(安宅会館)
平成27年 2月 1日	符津小学校校下立志式(南部公民館)
平成27年 2月 1日	木場小学校校下立志式(木場町集落センター)
平成27年 2月 7日	板津中学校校下立志式(JAこまつ多目的研修センター)
平成27年 2月 7日	芦城中学校校下立志式(芦城センター)

年月日	内 容
平成27年 2月 7日	松東中学校校下立志式(ふれあい松東)
平成27年 2月 7日	丸内中学校校下立志式(丸内中学校)
平成27年 2月 8日	那谷小学校校下立志式(那谷町会館)
平成27年 2月 8日	矢田野小学校校下立志式(小松ドーム)
平成27年 2月14日	中海小・東陵小学校校下立志式(東陵会館)
平成27年 2月17日	小松市小学校体育研究協議会(小松市役所)
平成27年 2月18日	小松市学校・教職員研究表彰式(小松市民センター)
平成27年 2月19日	第2回教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 2月19日	第3回教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成27年 2月22日	栗津小学校校下立志式(栗津町会館)
平成27年 2月26日	勝木賞授与式(サイエンスヒルズこまつ)
平成27年 3月 2日	第1回小松市議会定例会(小松市役所)
平成27年 3月 4日	小松市立高校卒業式(小松市立高校)
平成27年 3月 9日	第1回小松市議会定例会(小松市役所)
平成27年 3月10日	第1回小松市議会定例会(小松市役所)
平成27年 3月12日	第4回教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成27年 3月12日	第5回教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 3月13日	小松市立中学校卒業式(各校)
平成27年 3月13日	小松短期大学卒業式(小松短期大学)
平成27年 3月18日	小松市立小学校卒業式(各校)
平成27年 3月19日	小松市立小学校卒業式(各校)
平成27年 3月19日	第6回教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成27年 3月19日	新教育委員会制度打合せ会(小松市役所)
平成27年 3月20日	第1回小松市議会定例会(小松市役所)
平成27年 3月20日	総合教育プレ会議(小松市役所)
平成27年 3月28日	こまつの民話絵本完成おひろめ会と原画展(絵本館ホール)